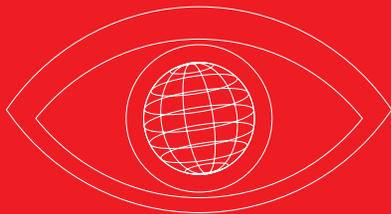


February 2004



Pick UP INTERNET MOVEMENT

ニュースな数字から見える2月のインターネット

87.1%

「ブログって何？」と答えた人の割合

ブログが流行っているとってまだまだのようだ。ウーマン・エキサイトが「LIFESTYLE」コーナーで、2月4日から10日まで「Q. ブログって、やってみたい？」と問いかけたら、女性向けのサイトということもあって「ブログ」という言葉さえ聞いたことのない人が大勢を占めた。このほかの答えでは「やってみたい」が4.2%、「面倒くさいのでやらない」が3.6%、「もうやってます」が3.7%だった。エキサイトでは2月2日から無料ブログサービスの「エキサイトブログ 版」を開始している。今回の質問に対する回答にはコメントも付けられるようになった。その1つを紹介。「ブクロかと思いました(池袋?)」

1,183 億円

日本のインターネット広告費

電通が2月17日に発表した「2003年日本の広告費」の中で、「インターネット広告費」は前年比40%増の1,183億円と急伸し、初めて1,000億円の大台を超えた。今後も年率30~40%の伸びが見込まれ、来年には2,000億円を突破し、3年連続で前年割れしているラジオ広告費を抜きそうだ。1月に発表されたヤフーの2003年10~12月期連結決算で、ネット広告関連収入が前年同期比66%増の58億円と過去最高になったことから、日本のネット広告市場が完全に復調し、急拡大していることがわかる。「ネット関連株は買いだ!」と思ったあなた。すでに多くのネット関連株は上がりまくっていますよ。乗り遅れた?

22%

スパムメールに返信しているユーザーの割合

シマンテックが、日本国内のインターネットユーザーを対象に行ったスパムメール実態調査の結果を2月12日に発表した。それによると、ユーザーの83%が何らかのスパムを受け取っており、そのうち半数以上がここ1年で増加していると感じている。しかし、スパムが届かないようにする対策については全般的に消極的。それでいて、もっともこの調査で驚いたのは、スパムメールに書かれているメールアドレスやなどに「受信拒否」を伝えるユーザーが22%もいたことだ。「現在も使われている“生きている”メールアドレス」ということを相手にばらしているわけで、スパム業者の思うつぼ。絶対にコンタクトしてはいけない。

1週間で 9.1 時間

米国40歳以上の女性のオンラインゲームのプレイ時間

オンラインゲームと言えば男性の若者がやるものかと思っていたが、意外や意外。米国AOLがオンラインゲームの利用実態調査を行ったところ、1週間のうちインターネットに費やす時間は、男性の23.2時間に対して女性は21.6時間だったが、40歳以上に限りオンラインゲームに費やす時間の調査を見ると、男性の6.1時間に対して女性が9.1時間と49%も上回った。なお、ティーンエイジャーは7.4時間だった。40歳以上の女性がオンラインゲームを楽しむ理由はストレスにあるようだ。日本の女性はどうか。オンラインゲームよりも、パチンコにはまっている女性はよく見かけるが.....。

日本初の本格的な単位互換認定制度の創設 企業の即戦力につながる実務教育を目指す NPO法人「実務能力認定機構」が発足

産官学が連携して人材の育成を担う新たな教育システム「単位互換認定制度」の確立を目指すための組織である「特定非営利活動法人(NPO)実務能力認定機構」(以下、実能機構)が発足し、本格的に活動を開始した。

即戦力のニーズと企業内研修の限界

バブル崩壊後の不況に伴う失業率の上昇や就職難、今後の少子化など、日本を取り巻く環境は厳しい。こうした中で、従来、教養や専門知識、学术研究を中心に教育してきた大学や大学院は、社会から即戦力となる人材の供給を求められている。それと同時に、将来の少子化を見据えた他大学との差別化も迫られている。この一方で、激変する経営環境にある企業は、経費削減が叫ばれる折、人材育成を主眼とした従来型の社内研修では費用対効果が上げにくくなっている。

「こうしたニーズと問題を解消して、長期的な展望のもとに優れた人材を育成するには、大学などの教育機関と企業との協働が不可欠だ。そこで、教育機関と企業を結び『エクステンジ』としての機能を果たし、大

学のカリキュラムと企業内研修を融合して相互に互換する教育システムを提供していくのがNPO実能機構の役割なのだ」と話すのは、早稲田大学客員助教授である宮沢賀津雄氏(同NPO理事)だ。早稲田大学は、2002年から「大学における実務教育および実務能力認定に関する研究会」を発足させて、これまで研究や議論を重ねてきた。

講座認定証に大学の単位を付与

実務能力認定制度が確立されれば、大学と企業による新しい人材の評価軸が形成される。

具体的な教育コースのイメージとしては、IT業界を例にとるならば「ネットワークエンジニア」「カスタマーサポート」といった希望する職種に沿って、企業の業務内容に必要なスキルと、その能力を身につけるための講座を対応させる。教材は、これまで大学や専門学校、企業(研修)で使われてきた教材を持ち寄り、各講座に合わせて新たに標準化したものを利用する。こうすることにより教材作成の作業負担が軽減されるうえ、実践につながる質の高い教材を用

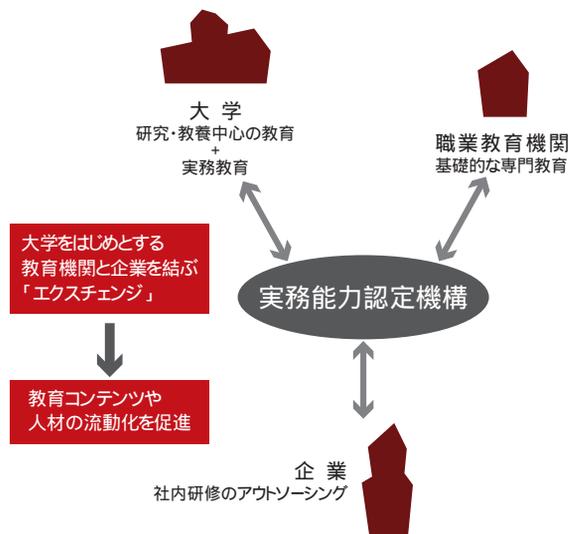
意できる。費用対効果が高いわけだ。

そしてきわめて特徴的なのが、各講座終了後に発行されている認定証(修了証)に大学の「単位」を付与しようとする試みだ。この認定証が大学など教育機関の中で「実務能力」と「単位」の裏付けとして互換・流通される。これにより、米国のジョブディスクリプションと同じ効果もたらされる。たとえば大学生ならば「即戦力になり得るスキルは有している」と証明でき、企業もその証明が「本物」と判断できるのだ。

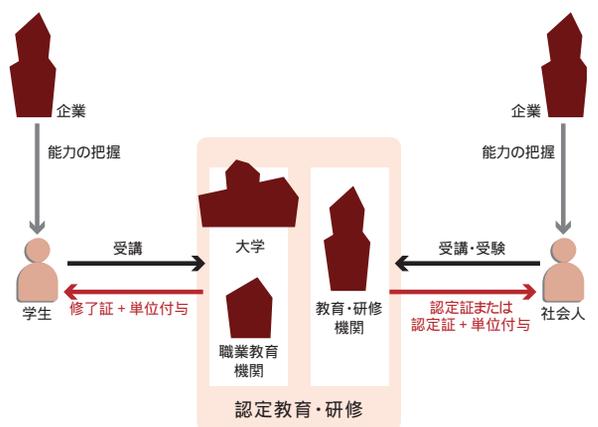
実能機構の設立時には、日本電気、松下電器、内田洋行などの企業や、全米通信システム技術者協会(NACSE)をはじめとする米国IT資格認定団体など25社が参加する。教育機関は、早稲田大学や慶應義塾大学をはじめとする大学や専門学校など10教育機関が参画。また、文部科学省や総務省、厚生労働省、経済産業省などの省庁からの協力も得ながら活動を進めていく。対象分野はIT、ファイナンス、外国語等であるが、今年はおもにIT分野に特化して、実務能力認定制度の確立に必要な内容の調査や研究を行う予定だ。

(編集部)

実務能力認定機構の役割と協働



実務能力の把握と評価の仕組み



NET&COM 2004が幕張メッセで開催(2月4日~2月6日)

ブロードバンド/ユビキタス時代の新技术が勢ぞろい IP電話の盛り上がり「普及間近」か

急速なモバイル端末(携帯電話)やブロードバンドの普及を背景に、第12回NET&COM 2004(主催:日経BP社)が開催された。出展社数は292社、来場者数はほぼ前回並みの7万3630人であった(①)。

今回のテーマは「変革への扉を押し開く、新技术と新サービスがここに集結!」。会場は、(1)システム構築/運用ゾーン、(2)セキュリティゾーン、(3)Webソリューションゾーン、(4)ネットワークゾーン、(5)CT/CRMゾーン、の5つで構成されて展示が行われた。このほか、多彩な講演やセミナーも行われた。

UFJの「約4万台 IP電話機導入」

ブロードバンド時代のキーアプリケーションの1つであるIP電話システムは急速に普及し始めており、関連製品の出展が多かった。また、会期中にNTTコミュニケーションズが、2004年3月から企業向けの「国際IP電話サービス」への参入を発表するなど、新聞紙上をにぎわせたこともあり、関心はいっそう高まっていた。

開催2日目に行われたキーノートスピーチ

SIPとは

SIPとはSession Initiation Protocolの頭文字で、「セッション開始プロトコル」を意味する。通常、IP網(インターネット)では、家庭などの固定電話のように、「相手とつながったことを確認してから通話をする仕組み」になっていない。これは、たとえばインターネットでは、通常、相手が在宅しているかどうかを確認しないまま電子メールをやり取りしていることから理解できる。

このようなことがないように考え出され、相手との回線の接続(セッション)が確立されたかどうかの確認をとったり切断したりする通信手順(プロトコル)がSIPである。通常、シグナリングプロトコルとも言われている。IP電話はこのSIPを利用して実現している。

このSIPは、IETFで標準化が進められており、2002年6月に「SIPv2」であるRFC 3261が制定されている。

「世界最大級、IP電話4万台導入の決断と経緯」は、会場は立見席が出るほど盛況であった。スピーカーのUFJ銀行システム企画部長 村林聡氏(②)は、ブロードバンドに対応したUFJ銀行のシステム構想である「UFJ BB(UFJブロードバンク)構想」のもとに、顧客満足度の向上を目指して、この3月から全国500店舗に約4万台のIP電話機を導入する決定をするまでの経緯を熱く講演した。

UFJ銀行は、IP電話機を電子メールや音声だけでなく画像の表示も可能なマルチメディア端末と位置づけ、さらにグループウェアとも連携して、統合管理された通信環境「ユニファイドコミュニケーション」を目指していることも明らかにした。

さらに今後は、絶えない印鑑の偽造に対抗するため、人間の指紋や声紋、顔などによってその人を認識する技術の「バイオメトリックス」による顧客認証も実現していくと語った。

また、IP電話の導入は企業システム全体としてのシステム設計上から導入されるべきものであり、単にコスト削減だけを目的とするIP電話の導入は失敗することを強調した。

IP電話は多種多様で花盛り

ネットワークゾーンは、まさにIP電話花盛りであった。

沖電気工業は、音声帯域の幅を通常の電話(300Hz~3.4kHz)から周波数を拡張したIP電話(80Hz~7kHz)によって、従来よりもはるかに高品質な音を実現する「e音(イーおと)IPフォン」を出展した(③)。また、これまで互いに独立して動作していた大規模IP-PBX機能と基幹業務アプリケーションを、複数の業務ソフトを連携させて動作させる「Microsoft.NET」上で融合させる新型のIPテレフォニーサーバーとして、「IPstage SS9100」の実演をした。この製品は開会前日に発表され、業界初の製品と



① NET&COM 2004の会場風景

しても注目された。

また、特設のVoIPパビリオンには、多様な製品が展示された。ジェイリンクは、LinuxおよびSolarisを採用したIP-PBXサーバー「Jenice IP-PBX」を出展。サンテレホンは、100%ソフトウェア(Windows 2000ベース)で、標準SIPプロトコルに完全準拠した「Sky IP-PBX」の実演をした。日立コミュニケーションテクノロジーは、日立電線が開発したIPセントレックスと組み合わせる無線LAN(IEEE 802.11b)によるIP携帯電話端末「WIP-5000」(SIP対応)を展示。

さらにIP電話機(IP-20B-TEL-SD)とパソコンを連動して、パソコン画面の顧客電話番号をクリックしてIP電話をかけるデモなども行った(④)。

日立IT(インフォメーションテクノロジー)のブースでは、展示会開催直前に発表した最新版のSIPベースによるIPコミュニケー



② 講演するUFJ銀行の村林聡氏



③ 高品質な音を実現するIP電話機「e音IPフォン」
 ④ IP電話機 IP-20B-TEL-SD とパソコンの連動
 ⑤ 参考出展されたUSBコードレス電話機「TF-FS22M-R」
 ⑥ VoIP Tester/VoIP音声モニタの展示
 ⑦ 組み込み向け顔認証「FaceX」のデモ
 ⑧ 中小企業／個人向けECツール「電子商店王」のブース

シオンプラットフォーム「SIP:OFFICE Ver.1.1」を実演した。また同社はIP電話システム用端末としても使用でき、USBケーブルでパソコンと接続可能なUSBコードレス電話機「TF-FS22M-R」をパイオニアと共同開発し、参考出展した(⑤)。

さらに、アリエル・ネットワークは、ピアツーピアで動作する企業の各プロジェクトのためのIPv6対応ビジネスP2Pソフト「アリエル・エアワン・プロ」IPv6対応版(グループウェア)を実演した。一方、NTT-AT(アドバンステクノロジ)はIP電話の普及に備えて、IP網上の音声パケットの品質やトラフィック状況などを解析するVoIP Tester/VoIP音声モニタを展示した(⑥)。

顔認証技術も登場!

セキュリティゾーンにも多彩な新技術が登場した。シスコシステムズは、自己防衛型ネットワーク構想「SDN(Self Defending Network)」のもとに、ウイルス/ワームの脅威から企業を守る次世代セキュリティソリューションを展示。

このSDNの第一フェーズとして、アンチウイルスベンダーの大手であるトレンドマイクロ、シマンテック、日本ネットワークアソシ

エーツの3社と協同で新しいネットワークアクセス管理技術「NAC」(Network Admission Control)を開発して披露し、多くの来場者の関心を集めた。

この技術によって、外部のウイルスに汚染されたパソコンを企業のネットワークシステムに接続できないようにする仕組みが実現できるようになる。

NECソフトは、携帯電話、PDA、ノートパソコンなどのモバイル端末を個別に認証できるモバイル向け認証セキュリティ製品「UBIQPASS(ユビクパス)」を展示。最近、携帯電話をはじめとするモバイル端末が普及するにつれて、外出先からモバイル端末を使って直接社内LANに接続したいという社員の要求が高まっているだけに、モバイルセントレックス/ユビキタス時代のセキュリティ対策の1つとして注目を集めた。

一方、ハイテクベンチャー企業であるディー・ディー・エス(DDS: Digital Development System)は、指紋認証、顔認証、音声認証などのバイオメトリクス認証の研究開発を進めているが、実績豊富な(例:機密保持が必要な場所の入退管理など)指紋認証ソリューションである「UB-

safe」とともに、携帯電話やPDA、ドアホン、セキュリティ機器などへの組み込み向け顔認証ソフトウェア「FaceX(⑦)」をデモした。

このFaceXを指紋認証「UB-safe」と組み合わせ使うことで、「指紋+顔」によるマルチバイオメトリクス認証も実現可能となってきた。このユビキタス時代の新しいセキュリティ認証のあり方は、来場者の大きな関心を集めていた。

安く運営できるECツールも

このほか、Webソリューションゾーンのアセットアルカディアでは、月々1万円程度の安価な費用でネットショップを運営できる中小企業/個人向けの「電子商店王(モバイルコマース用の携帯版とPC版がある)による経済的なECソリューション(⑧)」を実現し展示した。

また、システム構築/運用ゾーンではインフォテックのウェブサイト構築・運用・管理ツール「Create! SMS(Site Management Server)」によるウェブサイトコンテンツの簡単な一元管理(4月に新バージョンを予定)なども来場者の注目を集めた。

(三橋昭和)

イー・アクセス、モバイルブロードバンドサービスの提供へ TD-SCDMA(MC)方式を用いた フィールド実証実験を3月より開始

イー・アクセスはモバイルブロードバンドサービスの提供を目指して、2004年3月よりTD-SCDMA(MC)方式を用いたフィールド実証実験を開始することを発表した。

TD-SCDMA(MC)は、Time Division Duplex - Synchronous Code Division Multiple Access(Multi Carrier)の略。

同社が提供する技術は、米国 Navini Networks社が開発したもので次の3つを特徴とする。①「スマートアンテナ」:これまでの全方位型のアンテナと違いユーザーに対して指向性を持たせることで、省電力化、電波干渉の最小化を実現する。②「マルチキャリア」:周波数を複数に分割して使う(図)ことで、電波の受信レベルやセル干渉を最適化して高品質を確保する。

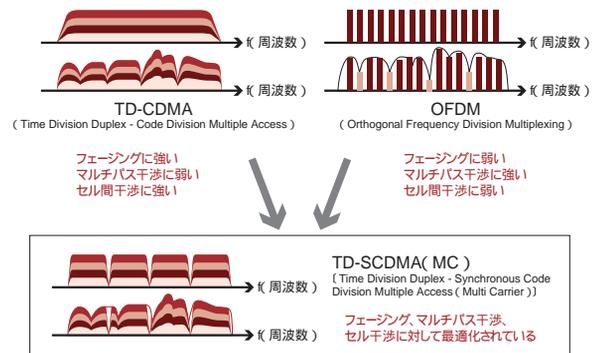
③「上り同期CDMA(SCDMA)」:情報をサブキャリアに分割して伝送の時間間隔を多く取って同期をとることで伝送品質を高める。

現在、TD-SCDMA(MC)は、標準にはなっていないが、北米携帯電話標準化組織「T1P1」第4部会で標準化が進められている。技術的設計過程は終了し、承認を待っている段階であるが、すでに18か国で実証実験や商用サービスが開始されている。

現在、イー・アクセスは総務省へのTD-SCDMA(MC)の認可申請を準備中である。

URL <http://www.eaccess.net/>

TD-SCDMA(MC)のマルチキャリア



有名ブロガー御用達？ マルチアカウント対応のブログサービス 「JUGEM」の無料ベータ版が開始

月間250円からの格安レンタルサーバーサービス「ロリポップ!」を運営する有限会社paperboy&co. URL①は2月13日、ブログ作成ツール「JUGEM」URL②ベータ版の無料テストユーザー登録を開始した。

田口和裕氏やかみのごうや氏など有名ブロガーらの記事をJUGEMで公開する「Start! JUGEM!」URL③のイベントが2月1日から行われていたこともあってか、初日の登録者数は約1300件と、ニフティの「ココログ」の初日の登録者数1700件以上には届かなかったもののまずまずの出足だったといえよう。ちなみに、ベータ版開始から1か月の登録者数は、ライブドアの「livedoor Blog」が約1100件、NTTデータの「Doblog」が2000件弱だった。

JUGEMはトラックバックやRSS生成などの標準的な機能のほかに、これまでのブログサービスではあまりみられなかった「マルチアカウント」機能があるので、1つのブログを複数のユーザーで作成することもできる。また、プロのウェブデザイナーが作成されたテンプレートが15種類用意(順次増加)されており、「これまでのホスティング型ブログサービスにあったインターフェイスのわかりにくさや、カスタマイズの乏しさなどを解消できた。正式版ではブログサービスで国内トップを狙う(家入社長)と言う。

目先ではモブログ機能を追加する予定



で、今後はいっそう機能を充実させた正式版の開始や、CMS(コンテンツマネージメントシステム)機能のみを単体で配布することを検討している。

URL① <http://paperboy.co.jp/>

URL② <http://jugem.cc/>

URL③ <http://start.jugem.cc/>

「ブレストティービーお笑いチャンネル」が受賞 第6回「@nifty ホームページグランプリ2003」は 動画とモバイル、シニア層が目立つ



開催から6年目を迎えた「@nifty ホームページグランプリ2003」[URL01](#)のグランプリ(賞金100万円)を、応募総数3830件の中から、お笑いネタの動画ランキングサイト「ブレストティービーお笑いチャンネル」[URL02](#)(作者:dai)が受賞し、1月31日に授賞式が行われた。この作品はその企画はもとより、動画コンテンツをランキング形式で紹介するという内容がブロードバンド時代ならではの表現方法であり、完成度は高く個人が時間をかけてサイトを運営しているという点も評価された。dai氏は「受賞は芸人さんたちのおかげです。これから一人でも多くの人に、大爆笑する笑いやあっと驚く笑いなどをお届けしていきます」と語った。

全体的には動画配信や、旅先など出先からサイトを更新するモバイル機能の活用などが目立った。また、シニア層の応募の割合が高く、インターネットのシニア層への

普及という面も見られた。

[URL01](http://homepage.nifty.com/gp2003/) [URL02](http://www.brst.tv/)

[URL02](http://www.brst.tv/) <http://www.brst.tv/>



グランプリの「お笑いチャンネル brstTV」(左と、1月31日に行われた授賞式(右))

「楽天ビジネス」と「楽天広場」は今年初 楽天が3大サービスの年間グランプリを それぞれ決定



楽天は2月、3大サービスの「楽天・オブ・ザ・イヤー2003」を決定した。今年で6回目の「楽天市場・オブ・ザ・イヤー2003」では、7725社を超えた出店者の中からユーザーによる投票のほかにショップへのアクセス数や売上などを総合的に評価し、3年連続でPC・家電の「い〜でじ!! 楽天市場店」[URL01](#)がグランプリを受賞した。

一方、今回から開催された企業間マッチングサービス「楽天ビジネスAward 2003」では、1400社以上の出展者の中から商談相手企業からの評価をはじめ、サイト内での見積作成件数や商談件数などを総合的に評価して、金沢に拠点を置く紙の卸商「角谷商店」[URL02](#)がビジネス賞を受賞。また日記コミュニケーションサービス「楽天広

場 オブ ザ イヤー2003」も同様に今回が初めての開催だった。約3000サイトの中から、ユーザーによる人気投票のほかにアクセス数などを総合的に評価して、国際色豊かな「INFINITE FAITH (無限の信頼・確信)」[URL03](#)が総合グランプリを受賞した。

[URL01](http://www.rakuten.co.jp/nojima/) [URL02](http://business.rakuten.co.jp/kakutani/)

[URL02](http://business.rakuten.co.jp/kakutani/) <http://business.rakuten.co.jp/kakutani/>

kakutani/

[URL03](http://plaza.rakuten.co.jp/infinitefaith/) <http://plaza.rakuten.co.jp/infinitefaith/>



今年から3つの年間グランプリを決定。

Producer/Directorにも輝きダブル受賞 第9回AMD Awardの大賞は KDDIとレーベルモバイルの「着メロ」

総務省の所管する社団法人デジタルメディア協会(AMD)では、1995年度からデジタルコンテンツの質的向上と人材育成を目的として、「AMD Award/Digital Contents of The Year」[URL01](http://www.amd.or.jp/award/)を開催し、優秀なデジタルコンテンツを表彰してきた。

そして、第9回「AMD Award/Digital Contents of The Year'03」が開催され、The AMD Grand Prize(大賞/総務大臣賞)は、KDDIとレーベルモバイルの「着うた」[URL02](http://www.au.kddi.com/ezweb/)に決定した。着うたは、企画製作や演出分野においてもっとも優れた功績を挙げた個人・団体に贈られるBest Producer/Directorにも輝き、ダブル受賞となった。

KDDIの着うたは、レコード会社の共同

出資で設立されたレーベルモバイルととみに2002年12月にサービスを開始した。昨年8月に2000万ダウンロードを達成するなど順調に伸び、NTTドコモとボーダフォンも追随している。

[URL01](http://www.amd.or.jp/award/) <http://www.amd.or.jp/award/>

[URL02](http://www.au.kddi.com/ezweb/au_dakara/chaku_uta/) http://www.au.kddi.com/ezweb/au_dakara/chaku_uta/



ダブル受賞したauの着うたに他社も追随したかたち。

話し言葉のように質問できる 検索サービスの実験がgooで開始

NTTとNTT-Xは2月5日、「goo」において「Web Answers」の共同実験を開始した。話し言葉調の自然な表現による質問を即座に解析し、gooの検索結果から回答候補となりうる言葉や表現を解析・抽出し、これらを含むウェブページをより上位にランキングして表示する。



[URL03](http://labs.ntttd.com/) <http://labs.ntttd.com/>

デジタルフォレストがメール解析ツール 「Visionalistメール解析」を発売

ログ解析ソリューションのデジタルフォレストは、企業内に存在するさまざまなログを解析する新しいコンセプトで企画、開発中の「Visionalistビジネスプロセス解析」から、メール解析ツール「Visionalistメール解析」を2月上旬に発売した。企業内で取得したメールのログを多角的に分析し、社員の就業状況や顧客との関係を把握することで業務改善に活用するという新コンセプトの製品。



[URL04](http://www.visionalist.com/mail/) <http://www.visionalist.com/mail/>

「インターネットと自動車ワークショップ2004」 ～インターネット時代の次世代ITS技術～開催

「インターネットと自動車ワークショップ2004」～インターネット時代の次世代ITS技術～が開催される。インターネット技術と自動車関連技術の両分野の専門家が一同に集い、現実的なアプリケーションの観点から自動車を中心としたコミュニケーション、情報環境のあり方について議論し、新たな方向性を見いだすための情報交換の場とすることを目的とする。

開催日時 2004年3月8日(月)12:00受付開始
デモ: 12:00 ~ 13:00、15:00 ~ 15:30
講演: 13:00 ~ 15:00、15:30 ~ 17:30

共催 奈良先端科学技術大学院大学
慶應義塾大学

会場 奈良先端科学技術大学院大学ミレニアムホール

案内 [URL05](http://inet-lab.aist-nara.ac.jp/event/icar-ws2004/) <http://inet-lab.aist-nara.ac.jp/event/icar-ws2004/>

お詫びと訂正

2004年4月号
・Product Showcase(123ページ)
PCWA-AR800・PCWA-C800S(SONY)の仕様に、一部誤った記述がありました。正しくは次のとおりです(訂正部分のみ掲載)

「AES暗号化:」 「WPA暗号化:」 「SPI:」 「ファイアウォール:」

また、Super A/Gとパケットフィルタには2月のファームウェアアップデートで対応予定です。

読者のみなさま、関係各位には多大なご迷惑をおかけいたしました。お詫びして訂正させていただきます。

イントラネットへのアクセスがブロードバンド回線と同等のスピードに NTTPCコミュニケーションズがVPNサービス「SuperEBN」に モバイルでの速度向上を実現する「ブロードバンドモバイル」を追加



NTTPCコミュニケーションズは、イントラネット向けVPNサービス「SuperEBN(スーパー・イービーエヌ)」に、モバイル通信の高速化が実現できる新サービス「ブロードバンドモバイル」を追加し、2月5日から提供を開始した。圧縮技術を利用してモバイル通信の速度向上を実現するサービスで、携帯電話やPHSなどによるモバイル通信のスピードを、ブロードバンド回線による接続と同程度に高速化できる。

SuperEBNは、同社が2001年7月から提供しているIP-VPNサービス。国内最大級の高速バックボーンに直結した高品質なビジネスネットワークサービスで、VPN網内設備を二重化することで優れた凡長性も確保しており、イントラネットや業界IPプラットフォームなど、SOHOから大企業まで対応するセキュアなビジネスネットワークを迅速かつ低コストで構築できる。また、さまざまなアクセスラインを利用できるのも特徴で、最大1Gbpsまでの専用線接続から、ADSLや光ファイバーといったブロードバンド接続、ダイヤルアップ接続などに対応しており、各拠点ごとにアクセスラインを自在に組み合わせられる。

モバイル通信向けにはこれまで、通常の携帯電話 / PHS接続のほか、NTTドコモの定額PHSサービス「@FreeD」、第三世

代携帯電話サービス「FOMA」、それに日本通信の定額PHSサービス「bモバイル」に対応したセキュアなダイヤルアップサービスを提供してきた。これによりモバイル通信における回線利用料金や、セキュリティ対策、サービスエリアなどの課題が解決され、たとえば、全国の営業担当者がダイヤルアップで本社に接続するリモートアクセス環境を経済的に実現してきた。

しかし、ビジネスシーンでもADSLや光ファイバーなどブロードバンドの利用が進展するとともに、ダイヤルアップでの通信速度の遅さが大きな課題としてクローズアップされるようになってきた。また、モバイルで利用する機能もメールやウェブの利用だけでなく、グループウェアやスケジュール管理、ファイル送受信、データベース、静止画送受信、動画送受信など多様化してきた。こうしたことからNTTPCコミュニケーションズでは、モバイル通信でもブロードバンド並みの高速通信を行いたいというニーズに応えるため、新たにブロードバンドモバイルのサービスを開始した。

ブロードバンドモバイルは圧縮技術を利用してデータ通信の高速化を実現するサー



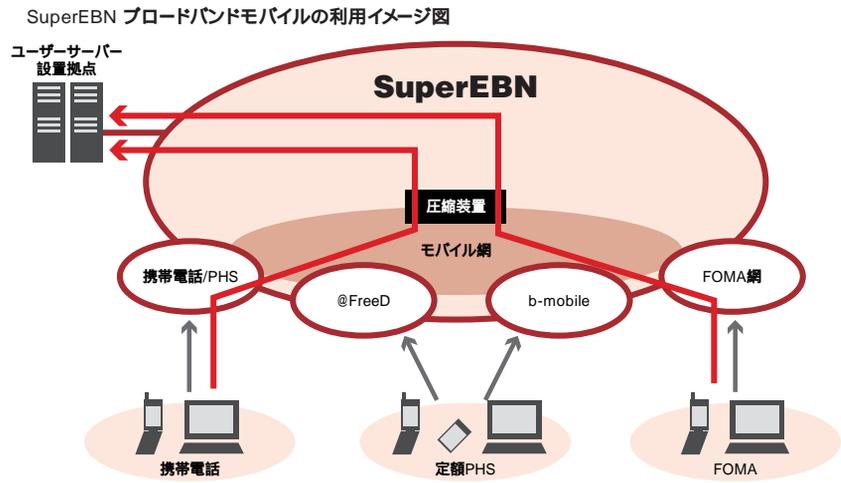
URL <http://www.nttpc.co.jp/vpn/>

ビスで、具体的にはSuperEBN網とモバイル網の接続点に圧縮装置を設置する一方、携帯電話などに接続したクライアント端末には専用のクライアントソフトをインストール。これにより圧縮装置とクライアントソフトの間で、プロトコルごとにパケットの最適化と圧縮を行ない、通信パケットを減少させることでデータ送受信の速度を向上させる仕組みだ。

同社の計測テストによると、500KBのJPEG画像を定額PHSサービスでダウンロードする場合、圧縮なしでは99.3秒かかっていたものが、ブロードバンドモバイルを利用すると、わずか3.4秒でダウンロードできたという。約29倍に高速化した計算で、ADSL並みのスピードでモバイル通信が可能となる。

また、通信手段はそのまま、データ通信の圧縮を実現して通信速度を向上するため、@FreeDやFOMA、ISDNなど、利用環境に応じたアクセス手段を選択できる。さらに、インターネットを経由しないため、セキュリティの高いモバイルアクセスが可能だ。

料金はネットワーク構成などにより異なるが、1VPNごとの月額基本料金は80,000円、1IDごとの月額利用料は950円で、別途、SuperEBNダイヤルアップ接続料金が要する。そのほかのオプション、および詳細については個別の見積もりとなる。



SuperEBN ブロードバンドモバイルの利用イメージ図

ユーザーサーバー
設置拠点



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp